

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

バンコク便り

2014年4月30日発行 第65号

バンコク在住の西川会長から

4月13～15日は水かけ祭りとして有名なタイ正月です。水かけに参加するタイ人ももちろんいますが、大型連休となるこの時期はタイ人にとって旅行シーズンでもあります。このところの人気渡航先の第1位は、昨年短期ビザが免除された日本だとのこと。この連休にも日本を旅行で訪れたタイ人は相当な数に上ったらしく、休み明けの4月16日に出勤したところ、職場に持っていくお土産なのか、ほんの30分ほどの通勤路で3人の日本の免税ショップのビニール袋を持ったタイ人を目撃しました。ますますタイ人にとって日本が身近になっていることを実感した瞬間でした。

さて、そんな折、私の友人も日本を旅行で訪れました。彼は、仕事で何度も日本へ行っているのですが、いつも東京や大阪を仕事関係の人と回るだけで、プライベートな旅行は今回が初めてです。一人で仙台まで行くとのこと、新幹線の切符の買い方を聞かれたので、「仙台まで大人一人、指定席、禁煙」と書いたメモを渡しました。(考えてみれば、新幹線の切符を買うときに伝えなければならない情報の何と多いことか)

数日後、彼は感激して帰国してきたのですが、その感想が興味深かったので、ご紹介します。彼は仙台の桜の名所に言ったそうですが、首都からずいぶん離れた地方の町に見事に整備された桜並木があるということ自体に驚いたというのです。桜が大本だったことから、何十年前、何百年前にきちんと人の手が加えられたことに感心しきりでした。そういえば、タイの田舎に行くと本物の自然はあっても、人の手が加えられて自然と調和した町並みというのはあまり見かけないかもしれません。そして、花見客の中に着物姿の日本人がちらほらいたことにも感激したと言います。自国の伝統衣装をこういう場で着るなんて、タイ人にとっては考えられない、日本の伝統は素晴らしいと言うのです。あまり意識したことのないことだったので、私にはあまりピンと来なかったのですが…。

ほかにも、「地方の電車は古いけれども、清潔を保っていてタイとはまったく違う」とか、「日本人は電車を降りるときにリクライニングを元に戻して、カーテンを開けて、ゴミまで持って降りる。これはすごい」とか、何から何までべた褒めです。あげくのはてには、地方へ初めて行って英語ができる人がなかなか見つからなくて難儀したことに関しても、「英語が通じない理由がわかった。日本は技術から何から、自分の国で完結できるから、英語が必要ないんだ。」といい方に解釈するありさまです。「車のエンジンルームを開けても、すべての部品に日本語が書かれているもんね。ほかの国なら輸入で調達しなきゃいけない部品もあるはずだけど、日本はすべて国内の企業で完結できるからね」と。

最後には、「日本は田舎に行ってどんな人を見ても教育を受けている人のような気がする。だから、一人旅でも怖いとは思わなかった。」「日本は本当に文明国だね。」と言われ、私は何と反応していいかわからなくなってしまいました。

そんな私に彼は「お前は、文明国で生まれて育ったから、何とも思わないだろうけど、本当にそうなんだよ」と言われ、私はやっぱり何と云いかえしていいかわかりませんでした。

皆さんはどう思われますか？

西川弘達

特集

～完成式ツアー&交流キャンプ～

報告者 松本康裕

2014年春の交流キャンプを3月15日～3月22日に実施しました。

今回は従来の「労働を中心としたキャンプ」ではなく、校舎建設資金を支援した学校での「完成式」への参加とカサロンの子供たちとの「交流」を目的にして実施をした、キャンプとしては初めての試みでした。

参加人数は、私（松本）を含めて6名が参加し、コーディネーターのムさん、更には「すみれ基金」の奨学生が5名（個々人の都合により日帰り～4日間迄）参加してくれ移動はワゴン車1台でできたので奨学生との交流も英語、日本語とタイ語が行き交う会話がみられとても楽しい時間を過ごせました。



3月15日 韓国ソウル経由でチェンマイへ

今回は航空券の手配が1週間ほど遅かった事と目的地がチェンマイだったため、大韓航空（ソウル経由）を利用して、夜の11時過ぎにやっとホテルにと到着することができました。



3月16日 メーホーソン県のバンメーガオ学校へ

メーホーソン県はチェンマイの西隣の県ですが県境の山脈を越えていくため、片側1車線のいわゆる峠道を4時間以上揺られて走り目的地の学校へ着いたのは午後2時を過ぎていました。学校はメーホーソン県の南のはずれにあり10Kmも行けばタック県で、周りを1000m近い山に囲まれた標高500m程に位置しており学校の周囲には人家がなく100人以上の生徒はどこから来たのかが不思議に思うほどの「へき地」で、生徒の半数以上が敷地内にある寮に住んでいる理由が現地を見ると理解できました。そんな所のため8人いる若い先生も全員寮住いで昼夜にわたり生徒の面倒を見ているその姿勢には頭が下がりました。

そんな携帯電話が「圏外」になってしまう所にも「やっと近くに雑貨屋さんできたよ」と先生が嬉しそうに話していた事が印象に残りました。

私たちが寄付した100万バツで建てられた3つの教室は昨年秋に完成して既に4年～6年生の教室として使用されていて、この教室によって教育環境が改善され子供たちの勉強意欲が向上してくれば・・・と今回の支援の目的を再確認すると共に、ここ（バンメーガオ学校）に支援して良かったと実感しました。



3月17日 完成式と子供たちとの交流

校庭には幅10メートル近い舞台と200以上の椅子が置かれ客席の左右には10個の展示ブースが並んでおり今まで経験した中では群を抜いた規模の大きさに驚きましたが、完成式のためではなく「学校創立20周年記念行事」で周りの4つの学校が参加したイベントであるとの説明を受け「いくらお祭り好きとはいえこの歓迎ぶりはすごいな～」と恐縮していた気持ちも和らいで各種

行事にゆったりとした気持ちで参加できました。

行事は前日夕方から「学校対抗戦（民族舞踊、民族音楽と現代音楽の各部門）」が例によっての大音量で幕を開け、午前中には僧侶を9人招いてのセレモニーがありその後場所を完成した校舎の入り口に移し「完成式」が行われました。

キャンの立派な看板がある入り口で校長先生や生徒代表のお礼の後にテープカットを行った後、改めて教室を案内していただき、その場で贈られた水彩画（生徒たちがいろいろな技法を使って描いた A4程の風景画でした）は今は私の部屋に飾られていて、とても良い思い出になっています。

午後からは我々が、折り紙、紙飛行機作りと日本語教室の3つのグループに分かれて子供たちとの交流をしましたが、全部で200人以上にもなった生徒を6つのグループに分けて（他校から集まる事を予想していなかったので150人分位しか材料を準備していませんでした）ムさんの通訳に助けられながら、とても楽しい2時間を過ごすことができました。

夜には前日に引き続いて学校対抗の歌や踊りがにぎやかに行われた中で、私たちの代表が袴をつけた盛装で「扇舞」を披露して好評を博した事も良い思い出になりました。

前日から参加した100名以上の他校の生徒達は学校ごとに教室で泊まっており、その子供たちを含めた200人以上の食事をバンメーガオの先生たちが手分けして作っていてその大変さに感心しましたが、先生たちの「大変だけど子供たちの事を思うとやりがいがある」と日々の暮らしも含めた思いを聞いたときには、現在中学校を中退する子がかなりおり、今回の校舎はステップにして中学校を併設して中退者を少なくしたいという校長先生の目標が先生たちに理解されて良い関係が築かれている事が感じられました。

3月18日 チェンマイで象乗り体験しカサロンへ

朝食後皆と別れを惜しみつつチェンマイへ戻り奨学生ともお別れしましたが3名の子が入れ替わりに参加してくれ、昼食もそこそこに一緒に近郊の象キャンプへ行き象にも乗ることができました。今日は4時間以上の移動と暑い中で過ごしたため少し疲れましたが、宿泊が温泉リゾートであったため夜をゆっくり過ごすことができ気分的にリフレッシュすることができました。

3月19日 カサロン滞在

朝食後にカサロンへ移動した時には子供達は近くのダムへ遊びに行っており4人しかおらず、用意した「手芸」や「凧づくり」は午後にずらし午前中は荷物の整理や洗濯をすることができました。



午後には寮母さんや奨学生も参加して手芸や凧作りを通じて皆との距離が少し縮まったような気持ちになりました。

3月20日 カサロン滞在

夕方に希望の家の子供たちも来て「バーベキュー」をするので、その食材の買出しに便乗しチェンマイの市場へ行った時に見たいろんな野菜や果物の値段の安さにびっくりすると共に羨ましくなりました。

午後には用意してきた日本米4Kg と海苔や具材で、女性群を中心におにぎりを60個以上作って皆に振舞いましたが今回は全部なくなり子供達にも好評のようでした。

夜には奨学生も交え庭の満月の月明かりの中で蛍を観賞しながらいろんな話をする時間も持て、とても充実した一日でした。



3月21日 チェンマイ市内見物し帰国の途へ

チェンマイ旧市街にあるワット・チェディルアン（1391年にたてられた基部が60M四方もある大きな仏塔がある寺院）へ立ち寄った後、国立民族博物館で少数民族の歴史や暮らしに触れて、メーサリアンで見学した民族博物館の展示とも合わせ少し少数民族の事が判ったような気になりました。

夕食は案内してくれたソムサック君とジャレー君と共にチェンマイ名物の「カントークディナー」を美味しくいただきました。もちろん辛い料理もありましたがその辛さはイサーンと比べると食べやすく食材の種類が豊富だった（注文してくれたムさん、ありがとう）事もあって美味しかったです。

蛇足ですが一緒に食べたカオニャオ（もち米）もやっぱり美味しかったです。

3月21日帰国

前日の夜12時近くにチェンマイ空港を飛び立ち途中ソウルで乗り継ぎ、朝10時過ぎには全員病気やケガもなく無事中部空港に到着することができました。

メンバー皆様の協力で終了できました、ありがとうございました

終わってみれば「あっという間」の一週間で、帰ってから顔や景色それに匂いなどをふと思い出した時に「ああ、行ってきたんだな・・・」と懐かしさを感じる日々です。

ただ今回は労働がなかったので、肉体的な疲労がない＝心地よい疲労感と共に感じる達成感はいわえませんでした。その分現地の人たちとふれあう機会はたくさんあったのでワークキャンプとは一味違ったツアーでした。

今回私が一番感じたのは「タイ語がわからないもどかしさ」でした。タイ語をあと一つでも二つでも話せたならばタイの人たちとの距離もずっと近寄れたのにな～と思うことがたくさんあり、その意味ではちょっぴり残念な気もしています。

こんなように満足感と残念な気持ちが両方残るので、また次にも行きたくなってしまいます。

今回のツアーに参加された立山さんから手記が届きましたのでご紹介いたします。

私達が出会ったのは偶然ではない。

それは、「カサロンの家」での2日目の出来事でした。夜、メンバーと雑談をして涼んでいる時のことでした。ポーッ ポーッと現れては消え、消えては炎に一瞬目を奪われました。

「あっ 蛍だ！」



私には印象深い蛍の話があります。

戦争当時、鹿児島県の鹿屋にいた父を連れ主人と3人で南九州の旅行に出掛けました。ひとつ違えば同じ運命になっていたであろう父の希望で特攻隊の記念館を訪れました。

死を前に飛び立つひとりの若者がいつも可愛がって下さった食堂のおばさんに最後のあいさつをしたそうです。「蛍になって会いに来ます。」と。

戦闘機と共に命を落としたであろうその日の夕刻、本当に蛍が現れたのだそうです。

そんな旅行から数ヶ月後、義母の命日の日 まさかそんなことがと半信半疑の主人と私が庭先に1匹の蛍を見つけました。思わずふたりとも目を見張りました。

あの蛍にもう一度会いたいと願い、夜中目を醒ましカーテンを開けると再び庭に蛍が大きく旋回したのです。

メンバーのひとりが「高恒さんが会いに来たんだよ」と。

今回の旅行は主人の足跡を訪ねてみたいと参加しただけに、そしてもう会えることはない諦めていただけに、胸が一杯になりました。

主人亡き後、私が元気に生きていくことが一番の供養とっておりましたので、元気に参加させていただいた上に主人に会えるチャンスまでいただけたことにとっても感謝しています。

昨年12月10日 3回忌の日、金融機関から「ご主人の預金があります。おろして下さい。」と連絡が入りました。(もう相続はとっくに終わっていたのです。)

これも不思議なことのひとつです。このお金でタイへ来られるようにということだったのでしょいか? 8月には「カサロンの家」へ再び孫と一緒に1ヶ月間ステイをさせていただけるようになりました。主人の可愛がっていた初孫の大きくなった姿を。

これも、ムさんをはじめCANの皆さんのおかげです。滞在中は有意義な1ヶ月にしていきたいと思います。

ひとりになった今

きょういくときょうようを大切に。今日行くところがある。今日用(事)があることはステキなことと思ひ明るく健やかにいつまでも夢みる女の子(失礼)でいたいと思います。この旅行にご一緒したとしえさんよりステキな一句をいただきましたので紹介します。

「ありし日を 偲ぶ夕闇 蛍舞う」

皆様に感謝して コップクン カー
立山 明美

報告

～2013 年度総会～

報告者 藤井佳奈

3月30日（日）例年と同様、名古屋中村区のNPOステーション内会議スペースにて、キャンヘルプタイランド2013年度総会を開催しました。当日は会長、運営委員7名、会計監査を担当して下さっている田中さんに加えて、3月の中旬に行った完成式ツアー（建設プログラム）にご参加くださった久保さん、また岩手県から駆けつけてくださった朴澤さん2名の会員様が参加くださいました。また25名の会員の方々よりはがきにて委任状を頂きました。総会後の懇親会にはツアーに参加頂いた立山さん、久保さん（ご夫婦で出席）、関本さんも加わり、タイでの旅を振り返って、食事をしながら楽しい時間を過ごされている様子でした。

総会では、松本理事を議長として議案書の項目通りに総括を行いました。2013年度活動報告、2013年度会計報告、2014年度活動計画、2014年度予算の順に各担当者が報告しました。以下では議案書に掲載の無い会議の詳細を一部紹介させていただきます。

まず、建設プログラムでは、2012年度からの計画を引き継いで、メーホンソン県バンメーガオ学校の要望に応じて、新しい校舎の建設に対して100万バーツの資金援助を行い、無事に校舎が完成しました。この100万バーツは皆様より頂きました建設プログラムへの寄付金とキャンの繰り越し金（過去の活動収益など）から出資しました。総建設費用は120万バーツとの報告がありましたので、ほぼ計画通りに建設が進んだようです。完成した校舎にはタイにおける標準規格の教室が3つあり、4、5、6年生の教室として既に子供達に使われています。2014年度の活動として、既に完成式ツアーが3月に実施され、日本からは引率の松本理事を含めて6名が参加しました。今回のメーホンソンの建設事業が大規模なものだったことを考慮し、2014年度は建設・ワークキャンプ等の予定はありませんが、支援が必要な学校の要望に応えられるよう、タイではFREEを通して募集を行っています。

奨学金プログラムでは2013年度予定として報告しました170名より10名程多い184名の子供たちに奨学金を授与しました。2014年度は同様に新規各県1名を基本として、今まで通りの支援を維持し、各県で授与式を行う予定です。一方、2015年度以降の奨学金支援に関しては、タイの物価の上昇や生活水準の全般的な向上、奨学金プログラムへの寄付の減少などを考慮して、金額や人数、支援地域など、支援のかたちを見直す考えです。ただし、プログラムが変更された場合でも継続奨学生の支援は全ての学生が卒業するまで続けられるように考慮します。

同様に、山岳民族支援でもプログラムの見直しを考えています。例年、プログラム初期に設定された120,000バーツの資金援助をしてきましたが、現在では実際に集められる寄付金の額を大きく上回っています。また、ラフー財団を通すことで、現地の必要に応じた支援を行ってききましたが、反面、実績が目に見え難いというのが現状です。これらの点を改善するため、2014年度からは資金援助の額を減らすと共に、より効果的なプログラムを計画して、「顔の見える支援」をすることということで意見がまとまりました。

最後に、2013年度は収益事業・イベント等の活動はしませんでした。活動可能な運営委員が少ない現状では困難と判断したためです。しかし、キャンヘルプタイランドの活動を広く知っても

らうためにはイベント参加が重要と考え、2014年度はワールドコラボフェスタへの参加を目標に準備をする方向です。

追加の議案として、会長から大矢理事が会長代行として指名され、再任の新井副会長と共に会長代行として承諾されました。

また、全体として総会では、毎月の運営委員会とは異なり、遠方の会員の方々や一時帰国中の西川会長から、普段聞くことができないご意見を頂くことができ、有意義な話し合いをすることが出来ました。

以上、総会の内容を簡単に紹介させていただきました。ご質問、ご意見等ございましたら、お気軽にキャンヘルプタイランド事務局までお問い合わせください。

報告2

～2014年すみれ基金奨学生候補者～

報告者 大矢 治夫


2011年度より発足したすみれ基金も順調に推移して、今年第4回目の奨学生を迎えます。すみれ基金の奨学生募集に於いてはキャンの唯一の提携先である現地 NPO 法人「FREE」の尽力よるところが大です。FREE が独自に開設した窓口を通じてタイ全国より「すみれ基金」への応募は百数十件の規模に達し、30倍～40倍にも達する大層厳しい倍率の基金へと成長しています。毎回最終選考まで残った応募者のプロフィールを見ても、どの学生にも当選して欲しいと迷うばかりです。






今年度の最終選考に残った6人のプロフィールが3月上旬に「FREE」から届きました。そして3月15日～3月22日の間でチェンマイを中心に交流キャンプを実施した折、すみれ基金の現奨学生や、今年の応募学生と選定委員との交流も出来て、すみれ基金への感心を深める事が出来たと思っています。

以上の状況を踏まえて5人の奨学生選定委員により、最終判定に向けて協議したところ、今年は4人の候補者に全員の意見が一致いたしました。そして今年度の最終判定者の関本委員により以下の4名が2014年度のすみれ基金奨学生と決定されました。当選した奨学生には5月の新学期から支援開始となります。

No.4	アッチラー・アドウィンジット	女性	大学 4年支援
No.9	サミター・タターカット	女性	短大 2年支援
No.44	パニッサラー・セーヤーン	女性	大学 4年支援
No.50	アデチャート・ドンパンムアン	男性	大学 2年支援

以下最終候補者6人を紹介いたします。

NO	写真	①名前(ニックネーム) ②性別 ③希望進路 ④出身 ⑤学校名 ⑥両親 ⑦家族収入 ⑧進路への思い ⑨成績 ⑩アルバイト等の頑張り度 ⑪その他性格など ⑫支援年数	支援
3		①シンナワット・イッティピブーンボン(シン) ②男 ③短大・ビジネスコンピューター ④北部・バヤオ県 ⑤Payao Technical College ⑥両親死亡 ⑦祖母・殆んど無い。⑧高い ⑨優秀 ⑩普通 ⑪一生懸命勉強して、節約する印象。物静かで、普通にいい子 ⑫2年	

4		①アッチェラー、アドウィンジット(フォン) ②女 ③大学・教育学部・英語学科 ④南部・バツタルン県 ⑤Rajabhat Surattani University ⑥両親離婚、二人とも行方不明。⑦親戚で無い人に養育される。貧困家庭 ⑧高い ⑨大変優秀 ⑩高い ⑪長い間大変な生活を送ってきた。落ちているココナツを拾って食べたこともある。高校の先生が何かと支援。FREE の訪問後、先生の投稿で、テレビの取材を受け、4 月に放映予定。TV 番組より 12,000bt./年間の奨学金決定。 ⑫4 年	○
9		①サミター・タターカット(ジャー) ②女 ③短大・ホテル・ビジネス ④北部・チェンマイ県 ⑤Chiangmai Vocational College ⑥両親死亡 ⑦祖父母収入殆ど無し。⑧普通 ⑨普通 ⑩普通 ⑪女性だけの学校に入学。性格良く、大人しい。料理好きでコックを目指したが、担任教師のアドバイスでホテル・ビジネスとする ⑫2 年	○
44		①パニッサラー・セーヤーン(ナツ) ②女 ③大学・看護学部 ④北部・チェンライ県 ⑤Maefaluang University ⑥健在 ⑦大家族・子供 21 人、17 人学生で、生活かなり大変 ⑧普通 ⑨大変優秀 ⑩高い ⑪少数民族・モン族出身・活弁で優秀。父親が 3 人の女性と結婚して 21 人の子持で生活苦しい。看護師という職業は魅力だが両親からの学費の支援が疑問。 ⑫4 年	○
49		①サオワラック・ジャンムアン(ミウ) ②女 ③短大・ビジネスコンピューター ④東北・カンチャナブリ ⑤Photaram Tecnikal College ⑥顕在 ⑦一般的家庭 ⑧普通 ⑨大変優秀 ⑩高い ⑪明るくておしゃべり。これほど優秀な子供は大学へ進学するが親の負担を考えると短大進学。就職しやすい環境もある。 ⑫2 年	○
50		①アディチャート・ドンパンムアン(ヌム) ②男 ③大学・土木工学 ④東北・マハサラカム県 ⑤Rajamankala Northeastern university Khonkaen ⑥片親・叔母の世話になっている。⑦普通の暮らし。⑧とても高い ⑨優秀 ⑩高い ⑪2012 年の奨学生で昨年短大終わるも、継続して大学へ進学。短大課程ではリーダーとして活動。成績優秀。今まで緊急の支援依頼あるも、報告は毎月正確に出ている。 ⑫継続奨学生希望・2 年	○

運営委員会

(2014 年 2 月～2014 年 4 月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	2月	事務所	完成式ツアー 総会準備
運営委員会	3月	事務局	総会
運営委員会	4月	事務所	奨学金授与式について

運営委員募集中!

一緒にキャンヘルブタイランドの運営に参加してみませんか?

通常は毎月第 4 土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は 開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。

編集後記

ネットワーク通信の第 65 号の発行が遅くなってしまい申し訳ありません。途中で合併号とかありましたが年 4 回の発行で 65 号ということは、もう 16 年近くも続いているということですね。僕が編集の手伝いをするようになってもう何年でしょう?最近は大規模な建設プログラムも実施されなくなり新しい記事がなく編集も大変ですが、今回は久しぶりに行われたメーホンソン県で大きな建設プログラムとチェンマイでの交流キャンプの記事をご覧ください。

<キャンヘルブタイランドネットワーク通信 Vol.65>

発行 キャンヘルブタイランド
 発行人 西川 弘達
 編集人 坂 茂樹
 発行日 2014 年 4 月 30 日
 住 所 〒450-0003
 名古屋市中村区名駅南 2-11-43
 NPOステーション内
 Tel & fax 052-566-5131
 (OPEN: 土曜の 13~16 時頃)
 E-mail: canhelp@npo-jp.net
 ホームページ: http://www.canhelp.npo-jp.net